

『多変量解析（データサイエンス大系）』

(松井秀俊 著, 学術図書出版社)

正誤表 第 1 版 第 1 刷 用

頁	場所	誤	正
90	下 3 行目	とおりである.	とおりである. ただし, ここでは非スパムを陽性, スпамを陰性とした.
97	5-2	表 5.2 の混同行列の結果から, 2 群分類に対する正解率, 誤分類率, 適合率, 再現率, 特異度を計算せよ.	表 5.5 の混同行列の結果から, 偽陽性率, 偽陰性率, F 値を求めよ.
	5-3	2 次判別, カーネル判別 による	2 次判別による
	5-4	※問題を以下に差し替えてください. [R 使用] ソースコード 5.1 の x1, x2 に対して, 次のプログラムを実行することでそれぞれの標本平均, 標本不偏分散共分散行列を計算できる. <pre> 1 ma = apply(x1, 2, mean) # x1の標本平均ベクトル 2 mb = apply(x2, 2, mean) # x2の標本平均ベクトル 3 Sa = var(x1) # x1の標本不偏分散共分散行列 4 Sb = var(x2) # x2の標本不偏分散共分散行列 </pre>	
		このことを利用して, がく片の長さが 5.5, がく片の幅が 3.0 の観測値に対してフィッシャーの線形判別関数 (5.9) 式の値を R で計算せよ.	
98	4 行目	異な り る.	異なる.
101	下 4 行目	マハラノビス距離によるは,	マハラノビス距離による 分類 は,
126	下 2 行目	※ p.126 下 2 行目「ランダムフォレストでは」から p.127 4 行目「特徴量の組合せも異なる.」までを以下に差し替えてください. ランダムフォレストでは, 各ブートストラップ標本から決定木を構築する際に, 各ノードにおいて, 特徴量すべてではなくランダムに一部のみを抽出したものに対して条件分岐を行う. たとえば, あるノードでは 1, 4, 5 番目の特徴量の中から最適な条件分岐を行う特徴量を 1 つ選び, また別のノードでは 2, 3, 5 番目の特徴量の中から同様の処理を行う, といった形である. これにより, 各ブートストラップ標本から多様な決定木を構築できる.	

129	下 2 行目	章末問題 7-6	章末問題 7-5
131	7-4	章末問題 6-3	章末問題 6-4
160	8-3	UScities	UScitiesD
186	9-3	リーグや年報などの情報	リーグや年俵などの情報
208	10-3	[R 使用]	(本問では R は使用しません)
224	表 11.5	分割表の元となるデータ	分割表を書き換えたデータ
232	11-5	※問題を以下に差し替えてください。 11.4.3 項で扱った Bollen データの潜在変数および観測変数を RAM (11.15) 式に対応させたものを, それぞれ $\mathbf{f} = (f_1, f_2, f_3)^\top$, $\mathbf{X} = (x_1, x_2, x_3, y_1, y_2, y_3, y_4, y_5, y_6, y_7, y_8)$ とする. このとき, 図 11.6 に示すパス図および <code>sem</code> 関数の出力結果から, 観測変数ベクトル $\mathbf{X}$ に対する潜在変数ベクトル $\mathbf{f}$ の係数からなる行列 A_b の要素を記せ.	

誤りではないが, わかりやすくするための修正

頁	場所	変更前	変更後
91	2, 3, 5 行目	適合率	精度
	3, 7 行目	再現率	感度
131	7-4	ヒントを追加する. [ヒント: 予測結果の出力には <code>predict</code> 関数を使用し, その引数に <code>type="class"</code> を追加する.]	